

土曜

SATURDAY

## ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

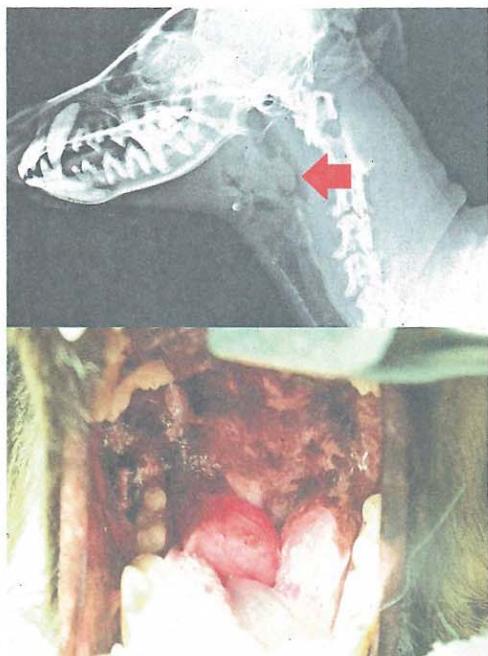
獣医の  
カルテアイビー動物病院長  
(射水市戸破)

宮川 慎

65

犬の“逆くしゃみ”は、「ズー」とともに、口を閉じて鼻の奥で苦しそうに何度も息をする状態です。診断的には「発作性呼吸」と呼ばれ、鼻咽頭の尾端部の粘膜が何らかの刺激を受け、強い吸気を伴う頻繁な呼吸を起こします。原因は不明です。

## 逆くしゃみ

咽頭部にできた唾液腺粘液  
囊腫（非腫瘍性）

小型種に多く見られますが、柴犬などの中型犬でも認められますので、犬種による差はないです。また猫でも起きることがあります。鼻咽頭を刺激する病的な要因として、鼻咽頭尾端部における炎症性疾患、異物、腫瘍を含む腫瘍などがあります。

炎症性疾患にはウイルスや細菌、真菌などの病原体が関与する感染性のものや、免疫細胞である白血球の仲間が鼻咽頭粘膜で炎症を起こすもの、特発性のものなどがあります。

異物は、草の実やごみなどが原因となります。鼻や口から吸い込むことで、鼻咽頭の粘膜が刺激され、生命の維持に関わる事態に陥ります。

## 疾患重複している場合も

こともあります。

逆くしゃみを示す疾患は上部気道疾患が見られるので、複数の症状や疾患が重複している場合もあります。日頃から意識して観察していただき「あれ?」と思ったら早めに動物病院を受診して確認してもらいましょう。可能であれば、症状が出ていた時の動画を撮影して持つて行くと、主治医の獣医師が診断する助けになります。